



概要版

北条地域まちづくり第II期構想

まちづくりのターゲット

エリアを楽しむアクティブな人

- ・高齢化の進行や流出超過による人口減少により、コミュニティの維持・継続が困難となり、だんじりや太鼓等の伝統文化を継承する人の不在や、自主防災（住民の助け合い）機能の低下が懸念されている。
- ・北条エリアに立地する学校法人四條畷学園に通う学生を対象とした飲食店や物販店等の居場所となるような施設がないため、エリア内に学生が留まらないという課題がある。
⇒ 学校法人四條畷学園の関係者（教員・学生・家族）や、第I期事業を契機に発展する北条エリアに期待感を持つ人を対象に、エリアを訪れ、楽しみ、住み、新たな北条の担い手となってもらえるよう訴求することが重要と考える。

まちづくりのコンセプト

ココロおどる カラダはずむ にぎわいの共創

- ・「カラダはずむ」
北条エリアの特性である豊かな自然を、体いっぱい楽しみ、遊びつくすというイメージ。
 - ・「にぎわいの共創」
北条エリアの新しいまちづくりによって、「何か楽しいことがある」というワクワク感や期待感があふれ、「訪れてみたい」「住んでみたい」と思わせるまちを、住民・来訪者問わず皆で共に創り上げていこうという思い。
- ※「にぎわい」とは、住宅地として極め、住む人が増え、豊かになった結果、そこで多くの人が集まり活発に活動する状況のさま。
- ※「共創」とは、人とまち、内部と外部、公と民等、様々な組み合わせを想定しており、多様な人とモノの関係性を豊かに築いていくことをイメージ

まちづくりのイメージ

にぎわいゾーン

- 「morinekiプロジェクト」との連携を踏まえ、地域のメイン通りとして、地域の歴史・文化や飲食等、地域内外から人を呼び込み、地域の顔となるにぎわい空間の創出を図るゾーン【機能導入イメージ】
- ・「morinekiプロジェクト」の拡張エリアとして活用
- ・“だんじり”等による地域文化の発信拠点
- ・学生や子育て世代、ビジネスパーソンを対象とした飲食店、物販店
- ・新しい北条エリアにふさわしい商業機能
- ・文化的複合施設 等



例:古民家をリノベーションしてマルシェを開催（熊川宿 菱屋）

アクティブ軸

- 市道北条8号線を、飯盛山や北条緑地等の自然環境を感じながら、エリア内を遊びつくし、伝統文化等の発信拠点として、地域内外に発信できる施設を繋ぐ、「アクティブ軸」に設定
- アクティブゾーン内の公共施設と、にぎわいゾーン・住宅ゾーンとの連携強化を目指し、アクティブ系施設の立地誘導等によりアクティブゾーン内の各施設を繋ぎ、アクティブゾーン全体を楽しむための動線の形成を図る

アクティブゾーン

- 飯盛山や北条緑地等の自然環境を感じながら、エリアを遊びつくし、北条エリアの伝統や文化、遊びや楽しみの発信拠点として、北条地域の魅力を地域内外に発信するゾーン【機能導入イメージ】
- ・自然を活用したアウトドア・アクティブ系施設
- ・地域内外から人が集まる飲食店、温浴施設 等

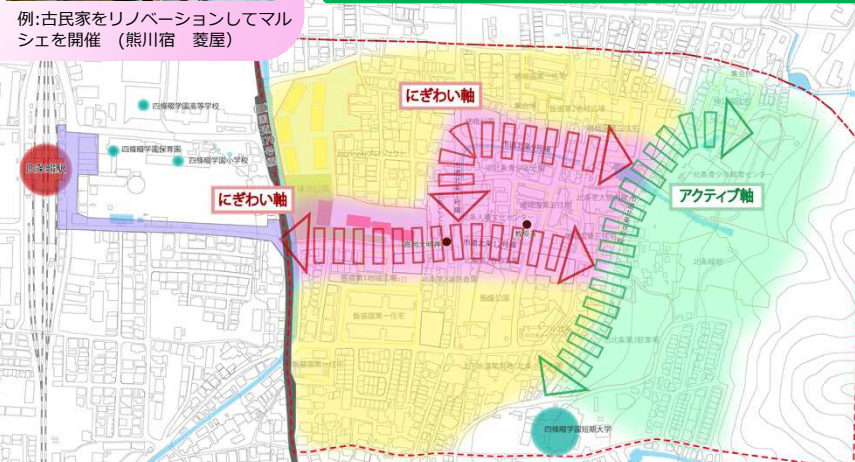


例:四万十川ジップライン

例:やまなし自然サウナ

にぎわい軸

- 四條畷駅から市道北条12号線を通り、アクティブゾーンを結び通りと、北条12号線から市道北条1号線、市道北条9号線を通り、北条青少年教育センターに向かう通りを「にぎわい軸」に設定
- 前者は文化系施設の立地誘導等による、来街者等を呼び込むための動線として、地域の“顔”となり、地域全体に活気を生み出すことを目指す
- 後者は公共施設の立地誘導等による、地域コミュニティの核となる動線として、住民間の交流等により活気を生み出すことを目指す



住宅ゾーン

「morinekiプロジェクト」との連携を踏まえ、落ち着いた景観の市営住宅や住民生活に必要な機能が集積した暮らしやすい良好な住環境の形成を図るゾーン

【導入機能イメージ】

- ・快適で省エネ。家族のコミュニケーションを意識した、断熱性能集合住宅の受け皿
- ・子育て世代等の若い世代に選ばれる住宅地(戸建て住宅、二戸一住宅等)
- ・地域の憩いの場となる公園（災害時は避難場所として活用）
- ・高齢者福祉や子供の“居場所”等の地域生活の要となる機能 等



例:団地の空室に設けられたNPO法人が運営する総菜屋における住民同士の交流（茶山台団地 「やまわけキッチン」）

凡	例
	第I期事業地
	学校施設
	神社・寺院
	北条エリア
	行政区
	住宅ゾーン
	にぎわいゾーン
	アクティブゾーン



政策決定一覽

